



農工通信



第71号



工学部キャンパス内にインキュベーションセンターが完成し、平成15年6月12日に開所式を迎えました。このインキュベーションセンターは、ベンチャー企業の育成をめざし、共同研究開発センターの一部として設置されました。

も く じ

○あいさつ	○部会・支部・クラス会だより……………19
同窓会長就任にあたり……………2	○会員からの便り
退任のあいさつ……………2	愛泉会における障害児とのかかわり……………22
○学園だより	○掲示板
平成14年度東京農工大学卒業式・修了式祝辞…3	農工大 TLO (株)の活動報告(3)……………23
平成15年度入学式祝辞……………4	キャリアアドバイザー(進路就職相談室より)
○新1年生に聞く 農工大学に入学して今、感じていること…4	一 拝啓「新卒業生諸子」……………23
○〈時事解説〉BSE 問題とこれからの畜産……………5	(財)東京農工大学後援会の活動……………24
○〈解説〉農工大インキュベータ竣工……………6	慶 弔……………25
○〈紀行〉禹長春記念館(釜山市)を訪ねて……………7	今春本学を退官された教官……………25
○第40回通常総会開催さる……………8	○同窓会支部長及び支部連絡先……………25
○新たに迎えた正会員……………12	○事務局だより……………26
○同窓会部会別会員数……………18	○農工大全 OB 基金会のお知らせ……………28
○本学60周年記念史編纂に向けて史料ご提供のお願い…18	○編集後記……………28

あ い さ つ

同窓会長就任にあたり

畑 中 孝 晴(農S31)



去る5月31日の総会において同窓会長に選任されました。前任の西尾会長は鳥取県の知事を永年勤められ、同窓会長としても記念会館の建設等多くの業績を残されました。ご退任に当たり、深く敬意を表する次第です。

前会長と私とでは相当実力の差がありますので、皆様方のご指導、ご協力を頂きながら何とか責めを果たして参りたいと存じます。

東京農工大学は2学部のみのお小さな大学ながら、研究拠点となるCOEは2課題、外部からの研究費導入も多額に上るなど研究水準の極めて高い大学として世に認められてきております。また、他大学、産学官相互の交流や独自のTLO(技術移転機関)の活動も大変活発で、我々同窓生も母校の

活躍振りに誇りを感じる昨今です。

現在、本校の同窓生は3万5千名を超え、国の内外で多彩な活躍をされております。こうした同窓生とのつながりは「農工通信」と同期会や部会、各地の支部の集まりが主体となっております。今後は、これに加えてホームページなどの活用により、同窓会の活動状況や大学の近況などを的確に伝え、若い方々にも身近にその存在を感じて頂けるようにしていく必要があると思っております。

また、来春には、大学も独立法人化されますので母校の発展のため我々に何が出来たのか、考えていきたいと思っております。

変動の激しい時代、同窓会の一層の活性化のために、微力ながら努力して参りたいと存じますので、会員の皆様のご協力を重ねてお願いし、就任のご挨拶と致します。

退任のあいさつ

西 尾 邑 次(農S17)



平成十一年五月東京農工大学同窓会の会長に就任いたし以来二期四年の間、理事会の皆様積極的な御尽力に支えられて今日を迎えこれを期に退任することになりました。

振り返って見ますと、前久保田会長に度重なる要請を受け、その任でないことを知りながら引受けてしまいました。予てから後任者について農学部工学部を通じて候補者の選考を理事会にお願いをしていたところこの度立派な人に恵まれ安堵の気持で一ぱいです。

畑中孝晴氏は、私が知事時代農林水産省農産園芸局にお務めで同窓の好みでもあり親交を続けておりました。お人柄といい識見といい感銘を覚える方であります。今日迄も副会長の職にもあり同窓会の運営に立派な貢献をしていただけるものと確信をいたしております。

私の在任中の課題として、農工大学五十周年記

念会館建設の第一期工事が竣工いたし第二期工事として同窓会並びに後援会事務室の建設の見通しがついたこと、又同窓会東京支部が設立されたことは慶ばしいことでありました。

同窓会の活性化について一言申し上げておきたいと思っております。

活性化について最も大切なことはなんといっても母校が優れた大学であることではないでしょうか。農工大学が教育面においても研究面においても、日本人としての道義をわきま倫理性を有し利己にとらわれない真の科学の探求の出来る青年を育てる、公共的な価値のある大学であってほしいと思っております。それによって同窓会員も卒業生であるとの自覚と誇りをもって社会活動ができると思っております。そして同窓会員の皆様には部会・支部・職域による活動そして母校への支援活動も一層盛んにしていただきたいものであります。

東京農工大学の一層の進展、同窓会員の御活躍御健勝を心からお祈りいたします。

学 園 だ よ り

平成14年度東京農工大学卒業式・修了式祝辞

同窓会長 西尾 邑 次(農S17)

伝統と誇りある歴史を有する東京農工大学をめでたく卒業或いは修了される皆様に心からお慶びを申し上げます。

そして希望に満ち澁刺とした若い皆様を我が同窓会の会員としてお迎えできることを大変喜びとするものであります。

さて皆様は、小学校に入学してから今日迄の長い学業生活を終え意義ある今日と云う日を迎え、来し方の故郷や家族・友人・先生そして勉強の事等を思い起こし感慨深いものがあろうと存じます。

さて、大学院に進まれる方は引続き科学の探求の道を、その他の方はいよいよ実社会に第一歩を踏み入れ活動を開始されるのでありますが、その道は決して平坦なものではなく厳しいものであることを覚悟しなければなりません。

大学では有能で倫理性を有する高度専門職業人あるいは研究者としての教育を受けてきたのでありますが、それは基本的なものであったと思えます。これからは、社会人・職業人としての勉強に入るわけで、いわば「卒業即新たな勉強の開始」であることを認識しなければなりません。

そこで二、三申し上げ参考にしていただければ幸いに思います。

一つ目は、大学での科学技術の探求・知識の吸収は、社会の進歩のために重要なことであり引続きやらねばならぬことでありますが、そのことは目的達成のための手段であり、手段として得た知識をどのようにして社会の役に立つものとして生かしてゆくか、そして倫理性を有する貢献を創造してゆくかが目的であることを認識し、立派な目的を抱きその実現のため懸命な精進をしていただきたいのであります。

二つ目は、人生の理想、いいかえればどのような生き方をするかと云うことを自分で考えて進んでいていただきたいことであります。

河合栄治郎は、人生の理想の目的は、「自分の人格完成に不断の努力をし、社会のために貢献し、生きることに生き甲斐を感じる事」だと申しています。人格完成のための努力手段それは一人一人が自分以外に自分を生かせるものはないのだと自覚し、どんなことがあっても生き通して行く

精神が肝要です。

三つ目は、月並なことですが心においていただきたい。それは、仕事に当たっての心構えであります。人格的に信頼ができ安心して仕事を任せられることができる人は、何と云っても誠実・公正な人であると私は確信いたしています。

中国の聖人も「誠実な気持ちで事に当たれば、やりとげることができ、傲慢な態度で臨めば失敗をまぬがれない」と云う意味のことを言っています。何事に対処するにもこのことは忘れてはならないことだと思います。

今や我が国の政治・経済・社会情勢・そして国際問題など皆様ご承知の通り大変憂慮すべき状況にあり人の価値観も変化しております。

このような状況の中に巣立っていく皆様、どうか健康でどのような困難に遭遇しようとも自信を持ち忍耐強く、燃えるような情熱をもって精進されることを願ってやみません。そして今日迄何かにつけて心配しながら養育して下さったお父さん、お母さんに、又社会のために有能な人材になることを期待しながら教育に懸命の盡力を下さった学長を始め、教職員の方々に対する感謝を忘れないでいただきたいものです。

終わりに文部科学省の21世紀COEプログラムの対象に農学・工学系共に選ばれる等、最近の活動が注目されている農工大学に学んだ誇りと自信をバネに、大きな夢と希望を抱き進まんとしている皆様の将来に輝かしい光のあることを期待しお祝いの言葉といたします。

(於・府中の森芸術劇場) 平成15年3月25日



平成15年度入学式祝辞

同窓会副会長 畑 中 孝 晴(農S31)

ご入学おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝い申し上げます。

今日は鉄腕アトムの誕生日、また、今年はワトソン、クリックのDNA二重螺旋発見から50年に当たります。この2つを工学部と農学部象徴として持ち出した訳ではありません。いまや工学、理学、農学といった縦割りでは研究の深化、新しい技術の開発は望めません。個々の分野の研究とともに各領域の融合が求められています。本学でも、既に生物システム応用科学研究科のように農工合体の学科も新設されています。これからの科学技術の研究開発は、細分化された専門分野を深く探求するとともに、異分野にも目をむけた幅広い知識が要求されます。皆さんも専門分野を深めながら複眼的な考え方や知識を身に付けて頂きたいと願っております。

また、知識とともに、これからは、どんな職業についても自分を知ってもらい、自分の考えを理解してもらうためにプレゼンテーションの能力が不可欠です。国際化の時代、若いうちに語学とと

もに、是非こうした能力を養って頂きたいと思えます。

今、ロボットやゲノムの利用など昔の夢が形になってきました。二重螺旋発見から50年、遺伝子組換え作物の栽培面積も世界で5千万ヘクタールを超えました。これからの50年、皆さんの時代には、どんな科学技術の花が咲くのか。夢を語り、それを形にするために、楽しい学園生活を送りながら、力を蓄える努力を期待してご挨拶いたします。



新1年生に聞く

農工大学に入学して今、感じていること

新1年生に、入学して2ヶ月農工大学で過ごしての感想を聞いてみました。

乾 翠(応用生物科学科) 東京農工大学に入って私が最も農工大学らしいと感じたのは、校内に動物が多いことです。馬、牛、羊、山羊、はてはノラのニワトリまでいます。羊は、最初は毛が不揃いに長くてみすぼらしかったのが、最近毛刈りされてスッキリしていました。例えるならスポーツ刈りの様でした。

加藤 千尋(地域生態システム学科) 農工大学には温かい人が多いというのが第一印象です。また、私は、環境問題、特に砂漠の緑化に関心がありその面で将来役に立ちたいという夢をもち、入学しました。そのためには学問とも人とも広く深く付き合い、視野を広げる必要があると実感しています。

鈴木 良(獣医学科) 農工大学に入学して一ヶ月半が過ぎました。最近では所属しているアメリカンフットボール部の練習も本格的になってきて、部活に燃える毎日を送っています。これから六年間、こ

の農工大学で青春を過ごしていくわけですが、部活や勉強、その他全てのことに本気でぶつかっていかうと思います。充実したキャンパスライフが今から楽しみです。

須藤絵里子(環境資源科学科) 私がこの大学を選んだのは、オープンキャンパスの時に自然が多く、先生方の人柄が良さそうだったからです。入学後



も思っていた通りで、今までよりも深い勉強ができて楽しいです。将来ごみ問題に関わる研究に携わることを目指して学んで行くつもりです。

高井美貴子(地域生態システム学科) 入試に遅刻しそうになって駅から必死に走っていた私の目に映ったのは、本館前のけやき並木でした。一瞬、試験も忘れ足を止めてしまう程のけやきでした。今では、忙しい毎日の帰りに並木を見上げると、ほっとします。時々枝が落ちてくるのがたまにキズですが。

養田 裕美(応用生物科学科) 「農工大学に入学したんだな、と実感する瞬間」部室(美術部)のスケッチブックに描かれていたのがヤギと羊だった時。蛙

柄のTシャツを見てみんな「かわいい～」と言った時。(他大学より蛙好感度高し)動物話になると必ず犬派猫派に分かれる時。(つまり動物好きがとても多い)森岡 裕詞(環境資源科学科) 農工大学に入って最初にもった印象は緑の多さでした。住宅街にあるおかげで、とても落ち着きたい環境にあると思います。学内の雰囲気もどこか、マイペースでのんびりしているように感じます。今年の環資はみんなが仲がよく、忙しくも楽しい毎日を送っています。

次回は、工学部の新入生の感想を予定しています。

〈時事解説〉

BSE問題とこれからの畜産

FSセンター 板橋 久雄(農S39)

BSE(牛海綿状脳症)がわが国で発生して1年が経ち、これまでに5頭の感染牛が見つかりました。この病気は牛だけに留まらず人間にも感染することがほぼ確実とされているので消費者の不安が広まりました。現在では安全性確保の対策が採られかなり回復しましたが、畜産は未曾有の大打撃を受け、農家と食肉関連業界の被害額は2千億円にのぼっています。

BSEは1986年にイギリスで初めて公式に認められ、これまでにイギリスで約18万頭、その他の国で2千数百頭発生しています。この病気にかかった牛は平衡感覚を失い、よろめいて立てない状況になり、脳にはスポンジ状の空洞があちこちにできます。BSEが盛んに報じられるようになった頃に、私は筑波の農水省試験研究機関で牛の栄養生理に関する研究を行っていましたが、これは対岸の火事であり防疫体制が整っているわが国に侵入するとは想像もしていませんでした。

プリオンという病原体：この病気の病原体はウイルスなどではなくプリオンと呼ばれる蛋白質です。プリオンを構成している蛋白質は牛のみならず哺乳類すべてにあります。異常プリオンが体に入ると、正常な蛋白質を異常な構造のものに変え病原体となるという非常に珍しい病気です。この悪性のプリオンが脊髄から脳に入り、そこで平衡感覚を失って歩けなくなるわけです。なぜ、正常な蛋白質が異常になるのかのメカニズムはよく分かっていませんが、その速度は非常に遅く、症状が出るまでに平均5年かかります。

BSEは古くからあったスクレイピーという異常プリオンが原因の羊の病気から牛に伝達したとされています。そのクズ肉や骨を煮て乾燥・粉砕

した肉骨粉を飼料として用い、種の壁を越えて牛の体に入り、さらに感染牛の肉骨粉の飼料利用が感染を広めました。肉骨粉は蛋白質飼料の一つとして1930年頃から世界で使われるようになりましたが、このような動物性飼料を使うと成長は産乳の効率が高まり、また大豆などに比べ安価なのとリサイクルの論理もあり普及しました。しかし、プリオンは非常に壊れにくい物質で高温で煮沸しても残っています。この肉骨粉の製造工程で煮沸処理では石油が使われますが、1973年の石油ショック前までは100℃以上で行われていたのに、その後の石油暴騰で80℃くらいに下げられ肉骨粉の危険度が増した、つまり石油ショックがBSEの発生を加速したといわれています。

なぜ乳牛に多発するか：日本で発生した牛はすべて5～6歳の乳牛ですが、その理由は2つあります。一つは乳牛の場合は生まれた子牛は1週間くらいで親から離され代用乳を与えられますが、これは脱脂粉乳や大豆や油脂類などで作られたもので、これにプリオンが潜んだ肉骨粉が入った可能性があります。発生した5頭ともほぼ同じ成分が入った代用乳を飲んだことがわかっており、こ



れによる発症の疑いが強くなっています。もう一つはBSEは感染してから平均5～6年で発病するが、肉牛は2～3歳で食用に処理されるのに乳牛は5～8年も飼われるため、発病する可能性が高くなるわけです。日本の5頭がすべて5～6歳であったことはこれを裏付けています。イギリスでも8割は乳牛で肉牛は2割です。

終息に向かうBSE：いま、日本にはこのような5～6歳の廃用牛が約5万頭いるので、まだ何頭かは発症すると思います。しかし、現在では食肉検査場で全頭検査が行われエライザ法という鋭敏な検査法でプリオンの蓄積が調べられており、また、危険部位である脳、脊髄、目玉および回腸の一部はすべて焼却され、また牛乳や肉には蓄積しないことがわかっているため、これらは全く心配ありません。また、全国の約450万頭のすべての牛に10桁の個体番号が記された耳標をつけて素性がわかるようにするいわゆるトレイサビリティが始まっています。BSEの原因も分かり、世界で肉骨粉の使用が全面禁止になったのでその発生は減り終息に向かっています。最近、アメリカでプリオン病になりにくい遺伝子型があることがマウス実験で確認されました。これを利用してBSEにかかりにくい牛をつくることもできそうです。

これからの畜産：1960年の農業基本法以来、畜産は大きく進展し特に生産効率が伸びました。しかし、そこでは肝心の飼料を作ることがおろそかにされ輸入に頼る方向に進み、飼料自給率は30%以下となっています。本来、牛は草食動物なので粗飼料を十分に与えるのが生理的にもいちばんよいのですが、効率を重視するあまり濃厚飼料を多く与える方向に進みました。BSE問題は効率優先の飼い方に一石を投ずるものといえます。狭い国土ですが休耕地などの有効利用で飼料生産を高めることはまだ可能で、その一例として飼料イネの利用が注目されています。これは農水省などで改良された多収品種を栽培し、モミと茎葉のすべてを収穫しサイレージとし乳牛などに給与するもので、本学農学部のフィールドサイエンス(FS)センターでもこれに取り組んでいます(写真参照)。稲のモミも入っているため濃厚飼料の一部節約の役目も期待されます。

BSEがわが国で発生したことは不幸な出来事ではありましたが、これを契機に畜産のあり方、農業のあり方さらには食の安全性問題が大きく問われています。これからは生産者よりも消費者の視点に立ち、健全で持続的な畜産の確立に努めなければならないと考えています。

(解説)

農工大インキュベータ竣工

共同研究開発センター

専任教員教授 高松 典雄

本学のインキュベーション施設(通称「農工大インキュベータ」)がこの程竣工し、6月12日に開所式が行われました。

ここでいう「インキュベーション」は、ベンチャー企業等の孵化、育成を意味し、「インキュベータ」は、技術シーズの事業化をめざすベンチャー企業等に貸し出す研究室等を集積した施設、またはそれを運営する組織を指しています。

アメリカには800箇所以上のインキュベータが既にあると言われ、我が国には公立私立を含め200箇所ほどありますが、国立大学では本学等13年度補正予算で認められたものが初めてであり、14年度補正予算でのものも含め23大学で設置乃至建設中です。

この程開所した本学のインキュベーション施設は共同研究開発センターの一部として設置されています。延べ床面積1,000平方メートルで4階建てで、入居企業等の専用スペースの基本的構造は

1階が機械系、2階が電子・情報系、3階が生命系、4階が化学系を想定しており、47平方メートルと24平方メートルの部屋があります。その他、共通スペースとして1階に事務室、相談室が設けられています。

入居できる企業等は、農工大学で教員又は学生が行った研究の成果を基に起業し、又は起業しようとする研究グループで、本学教員と共同研究又は国の行う研究開発事業を行うもの又は本学教員に委託研究や継続的技術指導を受けるものであることが必要です。

昨年度行われた入居企業の募集に対し、13の応募があり、最終的に7社2研究グループが選考され入居しています。

これらの入居企業等に対しては、共同研究を通じた担当教員からの技術支援の他、共同研究開発センターとしても企業等からの求めに応じ、情報の提供、技術や経営等に経験のある地域や農工大

学OB等の有志アドバイザーや専門家の紹介などの支援が行われます。また、農工大TLOに派遣される公認会計士、弁理士、弁護士、中小企業診断士等の専門家の助言が無料で受けられることになっているほか、纏まった時間・費用のかかる調査等は有料で実施する機関の紹介等が行われる予定です。

入居期間は原則3年間で、特に必要と認められた場合には更に2年間延長が可能です。なお、入居時点において会社となっていないグループについては1年以内に会社とすることが必要で、それが出来ない場合には退去することとなっています。

本学インキュベータは、特色として、①大学の主体性を確保したインキュベーション②共同研究システムに連動した手厚い研究支援体制③地域インキュベータと連動した一貫したインキュベーション④TLOを活用した弾力的かつ迅速な支援体制⑤支援人材の広いネットワークを活用した適切な助言体制⑥外部の専門家を加えた厳正な審査



体制⑦起業を目指す学生、社会人のための充実した教育体制、を持つように運営されることを目指しています。

大学発ベンチャーの育成は、今日の経済を活性化させる重要な活動として社会的に大変期待されています。ベンチャーで成功させるのは大変と思いますが、産官学連携を積極的に推進する本学インキュベータからも是非優良な企業が巣立って欲しいものです。

(紀行)

禹長春記念館(釜山市)を訪ねて

生物生産学科 淵野 雄二郎(農S43)

昨夏、アジア大会の直前(9月26~30日)に、留学生の尹起喆君(大学院連合農学研究科在学)の案内で韓国を訪問した。慶州及びソウル周辺の実態調査が当初の目的であったが、何かの折りに梶井前学長に韓国行きを報告したら、「それは丁度いい機会だ。たしか最近、禹長春記念館が釜山に建立されたはずだ、訪ねてみてくれないか。彼は実科の卒業で遺伝育種研究ですぐれた業績を残しており、近代日本農業技術史年表に二度も三度も名前がでてくる」という“宿題”をいただき、急遽“実科の先輩”の足跡を辿ることも韓国訪問の一つに付け加えた。

禹長春については、作家の角田房子が多くの関係者の取材・インタビュー、綿密な資料調査を積



み上げ「わが祖国—禹博士の運命の種」(新潮社、1990)でその生涯を克明に画いており、記念館を訪問する上での予備知識として十分な内容である。

禹長春は朝鮮人の父と日本人の母親の間に生まれた在日朝鮮人であり、苦学しながら1919年(大正8年)に東京帝国大学農学部実科を卒業、同年に農林省の西ヶ原農事試験場に就職した。その後鴻巣試験地の設置に伴い、1926年(大正15年)に技手として移ってから本格的に菜種の遺伝育種学の研究に取り組み、その分野の第一人者になる。近代日本農業技術史年表(農文協2000年)をくると次のように記載されている。

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 昭和6年 | 禹長春農事試験場で菜種の品種特性とその遺伝育種学的研究開始 |
| 昭和10年 | 盛永俊太郎・禹長春 プラシカのゲノム分析と種属間雑種の育成 |
| 昭和15年 | 禹長春・伊藤庄次郎(タキイ種苗) F1採種法の基礎研究開始 |
| 昭和19年 | 禹長春(タキイ種苗)自家不和合性利用のF1採種体系考案 |

日本で蔬菜のゲノム分析を行い、育種合成(品種改良)に成功した先駆けであり、1936年に東京帝国大学から博士学位を授与され、その後、鴻巣

試験場からタキイ種苗に移り終戦までそこで研究に専念する。しかし、在日朝鮮人としての辛酸も経験したと伝えられており、1947年大韓民国が樹立されると、疲弊した韓国農村・農業の建て直しを求める官民あげての「禹長春博士の帰還を求める運動」に応じて母国へ帰還し、韓国農業の近代化に大きな足跡を残した。

記念館は釜山市の中心から北へ約20km、金井山の麓に近い東菜地区の広い道路の脇の新しい住宅の建ち並ぶ一角に立てられている。ここは、かつては禹長春博士が帰還して育種学の研究に専念するために建設された園芸試験場であり、案内板には、当時は朝鮮戦争後の戦乱復興期であったが、韓国の将来の発展を見据えて花卉園芸の研究と後進の研究者養成に全力を尽くし、農業近代化に大きな貢献を果たし、1957年に釜山市の第一回文化賞(科学部門)、1959年には建国以来二番目の韓国文化褒賞を授与したということが記されていた。

記念館の玄関口には禹長春の胸像があり、その斜め前に立派な瓦葺きの屋根に護られた形で古い井戸が保存されていた。この井戸は乳慈泉と呼ばれている。その由来について記念館の職員の話で

「1953年に日本に残して来た御母堂が81歳で亡くなった。『母、重態』の電報を受け、先生は一刻も早く日本に帰ろうとしたが、当時の社会事情のもとで出国の許可がおりず、御母堂の臨終には参席できず、悲嘆にくれ号泣した。そのことが伝わると御母堂の死を悼み、全国各地から香典が寄せられた。先生はこの金のすべてを使って、かねて水不足に悩むこの地域の人々のために試験場内に立派な井戸を掘り、「慈乳泉」と名付けた」そうである。その後、この地域一帯が住宅地域として開発され、園芸試験場がソウル市水原に移転しても、禹博士の胸像と一緒にこの井戸は大切に保存され、記念館を訪れる人が母思いの博士を偲ぶ場所になっている。

当時は試験場の周辺に広大な畑、果樹園が広がっていたということを聞き、自然に囲まれた環境のもとで地元の農家の協力支援をうけながら、韓国の人々にとっては欠かすことのできないキムチ用の大根や白菜の品種改良のために日夜、精力的な研究に取り組んでいる姿が目に見えようであった。

東京農工大学同窓会第40回通常総会開催さる

日 時：平成15年5月31日(土)13:30~15:30

場 所：東京農工大学農学部連合農学研究科棟会議室

出席者：理事及び代議員 計209名(うち委任状81名)

第40回通常総会は、5月31日、この時期38年ぶりの台風上陸という生憎の天候にもかかわらず、母校農学部キャンパスに、多数の同窓生代表が参集し、開催された。

まず、澤田副理事長から、出席者が定足数を超え、会議が成立している旨報告があり、小原理事長の開会の辞によって通常総会会議にはいった。

会議に先立ち、西尾会長から、「同窓会活動の目的は同窓会員相互の親睦、母校農工大学の発展であり、なんといっても、母校が卒業生として誇りを持つてる大学であって欲しいということが、一番重要なことである。最近、農工大学はいろいろと研究面での良い評価が得られており、嬉しく思っており、誇りを持つてる大学の卒業であるとの意識が強くており大学当局に感謝している。ただ、研究面とは別に表に出ず評価の難しい大切なことがある。これからの職業人としては、道義、倫理性を持っているかどうかが大切である。研究一点張りでない、人間性のある、人格のある立派な学生を教育して戴くようお願いする。最後に、素晴らしい大学になるよう、同窓生も一段と協力支援体制を強く更に支部、職域における同窓会活動を、それぞれの地域で活発にして欲しい」との挨拶が行われた。

つづいて、来賓の宮田学長から「今後大学間競争が厳しくなるが本学は、化学・材料化学分野でナノ未来材料、学際・複合・新領域部門で生存科学の構築が21世紀COEに選ばれている。また産学協同研究が活発に行われ、産学協同研究件数は区分Aで全国7、或いは8位(教官一人当たりでは全国1位)、区分Cでは全国1位となっている。更に知的財産本部が、ヒアリングなしに設立が決定されている。TLOも設立時は全国1の大きさであった。今でも2、或いは3番目の資本金を持っている。来年には、法人化され、経営協議会、教育研究評議会が設置され、運用が行われること



になる。運用資金については、配分は大学に任される。但し毎年1%分減額されることになるので、独自に収益を生み出すことが必要になる。現在126件のアイデアが出ている。資金配分、アイデアの実現に向けて同窓会員の協力を得たい」との大学の近況及び今後の方針が概説された。また、梶井名誉顧問から「全国国立大学の獣医学統合の再審議が行われていることの紹介と、農工大学60年誌編纂委員会の紹介に加え今後の獣医学のすすむべき道についての意見、60年誌に記念として残しておきたい業績の推薦及び関連資料の提示をお願いしたい」との挨拶がされた。

さらに、西川顧問より「来年4月から法人化される。日本の長引く不況が法人化を行う背景になっている。具体例をあげて(主にヨーロッパと対比して)、世界の中での日本の経済状態と今後についての説明、さらに法人化により予算は自由に使える様になるが、減額される。減額は自己調達が必要。そのため、産業界との連携の強化が必要になるが、国会の場から協力していきたい。

また農工大学は、実績を挙げているのに有名でない。正当に評価されていない。50年、100年後にもわかる名前、学生を集めるのに有利な名前の検討をして欲しい。将来、人口が減ることを考えて、二つくらいの附属高校をもっても良いのでは? 農工大学のますますの発展を祈念する」との挨拶がされた。

引き続き、会則に則り、西尾会長が議長となり、交代に伴う、前・新事務局長の紹介、さらに議事録署名人2名(高橋幸資、亀山秀雄常務理事)を選任し、議事に入った。本年度は、同窓会役員(会長及び副会長)の改選期に当たることから、本会議を一時休憩、理事会を開催し、会長の決定及び副会長の選任案が承認された。理事会終了後引き続き本会議が再開され、理事長より次期会長及び副会長の選任経過報告が行われ、承認され、畑中新会長の新任の挨拶が行われた。

議事

1. 平成14年度事業報告、決算報告及び監査報告

高橋総務部長より、資料1項に基づき、平成14年度の事業13項目について項目別に報告が行われ、また、淵野経理部長より、平成14年度決算報告[別記1]が行われ、何れも異議なく了承された。さらに、佐々木監事から、同年度の会計監査及び業務監査について、報告書・帳簿・伝票等の精査を実施した結果、適正であると認められる旨報告された。

以上、平成14年度事業報告、決算報告、監査報告について何れも異議なく了承された。

2. 平成15年度事業計画、予算案提案

高橋総務部長より、平成15年度事業計画案[別記2]の12項目にわたり提案、これらの中、重点4項目(本議事録4項に記載)についての説明が行われた。本提案、説明に対し、何れも異議なく了承、可決された。

また、淵野経理部長から平成15年度事業予算案[別記3]について提案・説明が行われ、何れも提案どおり承認、可決された。

さらに、高橋総務部長より、同窓会会則の第4条の

一部改正についての経緯及び改正案が説明され、質疑の結果別記5の記載の内容で承認、可決された。

ここで本会議は一旦休憩し、理事会を開催し、小原理事長から次期会長の選任経過及び紹介が行われ、異議なく了承された。また副会長の選任案が提示され、了承された。

3. 会長、副会長の選任

理事会において了承された会長、副会長案に基づき、再会された本会議において提案、下記の通り承認された。()内数字は人数

*会長(1)、副会長(18)[別記4]

4. 今後の主な同窓会事業内容(論議の一部を含む)

上記議事1、2に関連した主な論議事項について概括すれば次のとおりである。

4.1 同窓会室建設の促進(記念会館の拡張)

計画案5をベースに、増築工事(110㎡)は3,000万円によって計画される見通しとなっている。内部には、演習林の樹木を使用することも検討している。

4.2 部会、支部活動の促進

ミニ講演会のテーマ、講演者のリストを紹介し、支部総会を行う際、計画の参考にして欲しい旨の要望をする。

4.3 八王子分収林に関する平成17年契約満了時に向けての対応策

毎木調査の実施結果を基に、条例を調査し八王子市との協議をして解決に向けて検討していく。

4.4 同窓会ホームページの充実

同窓生の協力を得て、リニューアル及びメンテを格安で出来る見通しが立っており、新たなホームページの充実に努めていきたい。これに対して澤渡氏よりホームページ充実のための予算についての質疑と、充実のためには、もっと予算を使ってよいのではとの意見が述べられた。

[別記1]平成14年度決算

(平成14年4月1日～15年3月31日)

1. 基本金決算

(1) 収入 (単位: 円)

款 項 目	(A)	(B)	(A)-(B)		備 考
	予 算 額	決 算 額	増	減	
前年度繰越金	329,829,520	329,829,520		0	
終 身 会 費	2,529,000	1,950,000		579,000	延65名(分納を含む)
賛 助 会 費	16,032,000	23,310,000		-7,278,000	延777名
合 計	348,390,520	355,089,520		-6,699,000	

(2) 支出 (単位: 円)

特別会計繰出	7,000,000	7,000,000		0	会員名簿発行
一般会計繰出	9,456,000	9,456,000		0	終身/賛助会費の10%
特別繰入れ分	4,500,000	4,500,000		0	基本金より特別繰出4,500千円
合 計	20,956,000	20,956,000		0	

(3) 残高 (単位: 円)

収入-支出	327,434,520	334,133,520		-6,699,000	
-------	-------------	-------------	--	------------	--

2. 一般会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	1,668,101	1,668,101	0	
入 会 金	3,654,000	4,655,000	-1,001,000	931名
年 会 費	1,927,000	2,430,500	-503,500	延1,618名
10年前納会費	780,000	795,000	-15,000	53名
利 息	2,111,000	427,226	1,683,774	
基本金より繰入	13,956,000	13,956,000	0	
そ の 他	20,000	102,780	-82,780	延777名
合 計	24,116,101	24,034,607	81,494	

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
事 業 費	12,200,000	11,639,098	560,902	
内 員名簿発行準備費	1,420,000	1,285,457	134,543	
内 員名簿作成費	0	0	0	
内 会 報 発 行 費	8,020,000	8,182,871	-162,871	7月, 12月
内 新入正会員歓迎費	855,000	809,600	45,400	卒業, 修了証書入れ
内 母 校 行 事 援 助 費	380,000	380,000	0	学園祭, スポーツ大会
内 分 収 林 管 理 費	310,000	110,110	199,890	森林保険
内 資 料 整 備 費	300,000	0	300,000	同窓会案内
内 活 動 費	915,000	871,060	43,940	
内 会 議 費	369,000	385,354	-16,354	通常総会, 懇親会
事 務 費	9,567,148	9,137,734	429,414	
内 手 当	2,196,750	2,036,000	160,750	
内 雑 給	2,826,446	2,759,837	66,609	
内 備 品 費	250,000	319,026	-69,026	PC不具合更新
内 消 耗 品 費	965,000	914,111	50,889	
内 通 信 費	582,000	498,803	83,197	合格者, 父母, 連絡
内 旅 費	2,124,952	1,958,040	166,912	総会支部代議員, 支部総会
内 事 務 用 品 印 刷 費	75,000	129,500	-54,500	賛助会入会案内追加分
内 慶 弔 費	32,000	33,570	-1,570	
内 借 室・光熱水費	370,000	356,341	13,659	同窓会室
内 雑 費	145,000	132,506	12,494	
支 部・部 会 還 元 金	810,000	939,000	-129,000	
職 員 厚 生 積 立 金	100,000	685,000	-585,000	職員退任積立
そ の 他	140,000	30,000	110,000	
予 備 費	929,953	0	929,953	
支 出 合 計	24,116,101	22,816,186	1,299,915	
次 期 繰 越 額	0	1,218,421	-1,218,421	

3. 特別会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 会 員 名 簿 発 行 資 金	(B) 職 員 厚 生 資 金	合 計
前年度繰越金	1,947,632	1,425,817	3,373,449
繰 入 金	7,000,000	685,000	7,685,000
利 息	1,326	109	1,435
合 計	8,948,958	2,110,926	11,059,884

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	会 員 名 簿 発 行 資 金	職 員 厚 生 資 金	備 考
支 出 合 計	312,000	1,117,000	名簿追送, 再送分

(3) 特別会計残高 (単位：円)

款 項 目	会 員 名 簿 発 行 資 金	職 員 厚 生 資 金	備 考
収入-支出=(1)-(2)	8,636,958	993,926	9,630,884
特別会計残高計	9,630,884円		

4. 財産目録

流動資産	344,982,825円
(ア) 基本金相当額	334,133,520円
(イ) 一般会計	1,218,421円
(ウ) 特別会計	9,630,884円

【別記2】平成15年度事業計画

- 第40回通常総会・理事会開催(5月31日, 於農学部)
- 同窓会組織強化, 活性化(新役員体制, 部会・支部・職域組織・活動の見直し)及び同窓会財務体質等健全化策(事業活動と資金, 資産の保全)
- 同窓会会室建設の推進(記念会館の拡張)
- 部会・支部組織の強化, 援助の継続実施(部会・支部総会等への常務理事派遣, 小講演会開催, 部会・支部名簿・ラベル打ち出し送付)
- 八王子分収林に関する平成17年契約満了時に向けての対応策
- 農工通信71号(7月1日)72号(12月1日)の発行, 全会員に配布
- 次期会員名簿発行事業について検討(構成, 発行形体等)
- 同窓会活動とそのPR活動の充実(ホームページの充実他)
- 会員動静整理の定常作業の継続実施
- 財団法人東京農工大学後援会への協力
- 母校行事に対する援助, 文化祭, 新入正会員歓迎行事援助の継続実施
- 会員の慶弔に祝電または弔電を打電

【別記3】平成15年度予算

(平成15年4月1日～16年3月31日)

1. 基本金予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 15年度予算額	(B) 14年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	334,133,520	329,829,520	4,304,000	
終 身 会 費	2,000,000	2,529,000	-529,000	延66名(分納を含む)
賛 助 会 費	20,979,000	16,032,000	4,947,000	延699名
合 計	357,112,520	348,390,520	8,722,000	

(2) 支出 (単位：円)

特別会計繰出	40,000,000	7,000,000	33,000,000	* 増築寄附 3 千万円, 会室特別備品 3 百万円, 会員名簿発行積立,
一般会計繰出	9,797,000	9,456,000	341,000	終身+賛助会費の10%
特別繰入れ分	6,000,000	4,500,000	1,500,000	14実+1.5百万円
合 計	55,797,000	20,956,000	34,841,000	

(3) 残高 (単位：円)

収入-支出	301,315,520	327,434,520	-26,119,000
-------	-------------	-------------	-------------

2. 一般会計予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 15年度予算額	(B) 14年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	1,218,421	1,668,101	-449,680	
入 会 金	4,189,000	3,654,000	535,000	837名
年 会 費	2,430,000	1,927,000	503,000	延1,620名
10年前納会費	800,000	780,000	20,000	53名
利 息	400,000	2,111,000	-1,711,000	
基本金より繰入	15,797,000	13,956,000	1,841,000	
そ の 他	50,000	20,000	30,000	
合 計	24,884,421	24,116,101	768,320	

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 15年度予算額	(B) 14年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
事 業 費	12,195,000	12,200,000	-5,000	
内				
会員名簿発行準備費	1,300,000	1,420,000	-120,000	
会員名簿作成費	0	0	0	
会 報 発 行 費	8,180,000	8,020,000	160,000	7月, 12月
新入正会員歓迎費	810,000	855,000	-45,000	卒業, 修了証書入れ
母校行事援助費	380,000	380,000	0	学園祭, スポーツ大会
分収林管理費	310,000	310,000	0	森林保険
資料整備費	300,000	300,000	0	
活 動 費	915,000	915,000	0	
会 議 費	385,000	369,000	16,000	通常総会, 懇親会
事 務 費	9,549,750	9,567,148	-17,398	
内				
手 当	2,196,750	2,196,750	0	
雑 給	2,800,000	2,826,446	-26,446	
備 品 費	319,000	250,000	69,000	機械化
消 耗 品 費	910,000	965,000	-55,000	
通 信 費	550,000	582,000	-32,000	合格者, 父母, 連絡
旅 費	2,100,000	2,124,952	-24,952	総会支部代議員, 支部総会
事務用品印刷費	130,000	75,000	55,000	
慶 弔 費	34,000	32,000	2,000	
借室・光熱水費	370,000	370,000	0	同窓会室
雑 費	140,000	145,000	-5,000	
支部・部会還元金	940,000	810,000	130,000	活動活性
職員厚生積立金	300,000	100,000	200,000	
そ の 他	30,000	140,000	-110,000	
予 備 費	1,484,671	929,953	554,718	
支 出 合 計	24,884,421	24,116,101	768,320	
次 期 繰 越 額	0	0	0	

3. 特別会計予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金+専用備品	(A)+(B)+(C) 合 計
前年度繰越金	8,636,958	993,926	0	9,630,884
繰 入 金	7,000,000	300,000	33,000,000	40,300,000
利 息	3,127	238	1,150	4,515
合 計	15,640,085	1,294,164	33,001,150	49,935,399

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	同窓会室建設資金+専用備品	(A)+(B)+(C) 合 計
支 出 合 計	312,000	685,000	33,000,000	33,997,000

(3) 特別会計残高 (単位：円)

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	同窓会室建設資金+専用備品	(A)+(B)+(C) 合 計
収入-支出=(1)-(2)	15,328,085	609,164	1,150	15,938,399

特別会計残高計 15,938,399円

[別記4] 会長, 副会長及び役員等体制

会 長 畑中孝晴(農 31)(平成15,16年度)

副会長(平成15, 16年度, 現在18部会, 18名)

- 藤巻 宏(農 36) 小川 益男(獣医33)
- 齋藤 誠(養蚕32) 勝野 盛夫(製糸28)
- 安藤 哲(植防47) 高井 英雄(織工31)
- 吉田 文男(農化25) 町山 紀郎(工化39)
- 澤渡 弘幸(林 33) 渡辺 秀夫(織化33)
- 星野 義延(環保53) 小谷野雄次(機械38)
- 荒井 宏(林 35) 宇野 亨(電気55)
- 田内 堯(農工35) 藤江大二郎(応物49)
- 本間 秀和(地生 H11) 岩澤 京子(数情56)

常務理事体制(平成14, 15年度)

- 理 事 長 小原 嘉明(農 39)
- 副理事長 澤田 孚夫(機械40)
- 総務部長 高橋 幸資(農化45)
- 副部長 加藤 誠(農工44)総会担当
- 副部長 大谷 幸利(機械47)会務担当
- 副部長 渡邊 敏行(材料61)支部担当
- 経理部長 淵野雄二郎(農 43)
- 副部長 桑原 利彦(生機57)経理担当
- 事業部長 額額 明伯(工化47)
- 副部長 岡山 隆之(林産49)企画担当
- 副部長 堀 三計(機械52)企画担当
- 副部長 寺岡 徹(植防50)情報担当
- 副部長 生原喜久雄(林 41)分収林担当
- 副部長 久保 隆文(林産43)分収林, 施設担当
- 広報部長 亀山 秀雄(化工48)
- 副部長 滝山 博志(化工62)HP担当
- 副部長 渡辺 元(獣医54)HP担当
- 副部長 横山 正(農 53)会報担当
- 副部長 竹山 春子(環保59)会報担当
- 事務局長 岡本 修二(機械40)

監事 佐々木清文(製糸17)
井上 完二(農 23)
小此木エツ子(教婦24)

4. 賛助会員 本学に在籍する学生の父母等で、本会の趣旨に賛成し、賛助会費を納入した者
5. 名誉会員 本会および母校の発展に寄与したもので理事会で推薦した者

【別記5】

同窓会会則一部改正について(会員資格)

(現行)

第4条 本会は次の会員で組織する。

1. 正会員 東京農工大学およびその前身の出身者
2. 特別会員 東京農工大学現教官並びに理事会で推薦した東京農工大学職員
3. 準会員 東京農工大学学生および他大学を卒業し、本学大学院学生となった者

(改正)

第4条 本会は次の会員で組織する。

1. 正会員 不変
2. 特別会員 東京農工大学現教職員で理事会で推薦した者
3. 準会員 不変
4. 賛助会員 不変
5. 名誉会員 不変

第2項、第5項の会員で本会の名誉を傷つけた場合には、理事会の議を経て会員資格を剥奪する。

新たに迎えた正会員

去る3月25日、平成14年度の卒業式が府中の森芸術劇場において行われ、学部卒903名(農学部319名、工学部584名)、大学院修了575名(工学研究科前期309名、後期32名、農学研究科155名、生物システム応用科学研究科前期69名・後期10名)、連合農学研究科修了42名、計1520名の新会員を迎えました。

同窓会部会別会員数

平成15年5月20日現在

区 分	現在会員数	うち今春卒業者数
農学・生物生産学部会	2,973名	64名
蚕糸生物学部会	2,160	—
植防・応用生物学部会	1,173	30
農芸化学・応用生命化学部会	1,949	48
林産・生物資源工学部会	1,302	23
環境科学部会	1,312	40
林学部会	1,881	—
生産環境工学部会	1,249	—
地域生態システム学部会	419	74
獣医学部会	2,012	40
(農学関係部会)	16,430名	319名
製糸・高分子・生命工学部会	2,722	87
機能材料工学部会	1,967	38
化学工学部会	1,619	45
応用分子化学部会	2,893	46
機械システム工学部会	4,052	134
電気電子工学部会	3,395	103
応用物理学部会	1,478	55
情報工学部会	1,217	76
(工学関係部会)	19,343名	584名
(正会員合計)	35,773名	903名
特 別 会 員	321名	
準 会 員	4,232	
賛 助 会 員	2,722	
名 誉 顧 問	4*	
顧 問	8*	
(会員合計)	—	

注：1. 大学院連合農学研究科，大学院博士後期課程，
大学院生物システム応用科学研究科修了者は，
含まれていない。
2. *一部同窓生を含む。

本学60周年記念史編纂に向けて史料ご提供のお願い

東京農工大学史料編纂小委員会

本学は、平成21年(2009年)に新制大学となって60周年を迎えることとなりますが、近年の本学の発展は目覚しく、さらに来年には法人化を控えて大きな変革が予想され、一層飛躍しようとしています。この間、平成11年(1999年)の50周年の際には、その一部を集めて「史料集」として記念史を発行いたしました。本委員会では、60周年にあたって史料を含め解説的にまとめた記念史として発行したい所存です。

60周年史は、55年間にわたる国立大学としての纏めともなりますので、その前後の経緯、すなわち本学の前身と法人化に至るまでの過程を含めたいと考えております。さらに、卒業生及び本学教官の中で、記念すべき業績を遺された方を記録したいと存じます。

つきまして、本学に関連する史料をお持ちでしたら、また記録に遺したい方が居られましたら、その史料をご提供いただきたく、ないしはコピーを取らせていただきたくお願い申し上げる次第でございます。

記

1. 本学に関する史料
(本学の歴史、学生生活などに関する史料、記録に遺したい卒業生・教官など)
2. 連絡先：本部 総務部総務課 村田昇一
Tel : 042-367-5503, Fax : 042-367-5553,
E-mail : zimsen@cc.tuat.ac.jp

農学部 地域生態システム学科 生原喜久雄
Tel : 042-368-5744, Fax : 042-364-7812,
E-mail : kikuo@cc.tuat.ac.jp

工学部 機械システム工学科 澤田孚夫
Tel : 042-388-7082, Fax : 042-388-7012,
E-mail : sawat@cc.tuat.ac.jp

部 会 ・ 支 部 ・ ク ラ ス 会 だ よ り

支部・部会

項 目	埼玉	徳島	宮崎	愛媛	秋田	大分
日 時	10月5日	10月19日	11月6日	12月21日	11月23日	9月28日
開催場所	大宮そごう	笹乃庄	東京庵	メルパルク松山	協働大町ビル	割烹さとう
支部・クラス	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会
理事派遣	淵野助教授	なし	なし	なし	なし	矢口助教授
参加者数	31名	8名	17名	12名	21名	21名
総会議事	決算、予算		事業報告 事業計画			会計・総務
講演、討論等	大学の近況	情報交換		情報交換	情報交換	大学の近況



埼玉県支部



徳島県支部



宮崎県支部



愛媛県支部



秋田県支部



大分県支部

支部・部会

項 目	富山	静岡	千葉	鳥取	製糸部会女子部
日 時	2月22日	3月8日	11月30日	4月20日	10月23～24日
開催場所	庄川観光 温泉ホテル	クーポール会館	京成ホテル ミラマーレ	東郷温泉	多摩せせらぎの里
支部・クラス			支部総会	支部総会	製糸部会女子部総会
理事派遣	なし	高橋教授	濱野教授	加藤教授	なし
参加者数	18名	41名	81名	16名	10名
総会議事	会計報告	活動報告			活動報告 今後の活動
講演、討論等	情報交換	講演	講演 大学再編 情報交換	大学改革 について	多摩御稜, 御岳美術 館見学, 繊維博物館, 養蚕実習室



富山県支部



静岡県支部



千葉県支部



鳥取県支部



製糸部会女子部

クラス会

項 目	拓殖学科	農学科	工業化学科	蚕業実科	製糸学科	獣医学科	獣医学科	獣医畜産学科
日 時	10月17日	7月6, 7日	6月1日	11月14, 15, 16日	11月24日	4月22, 23日	4月12日	11月6, 7日
開催場所	江の島	福島県 新甲子温泉	新宿高層ビル	長崎, 雲仙, 島原, 阿蘇	台場レスト ラン「四季」	群馬片品温泉	道後温泉	静岡掛川 つま恋ホテル
支部・クラス	①S17年9月 拓殖学科卒	②6711会 (S46農学科 卒)	③フサク会 (S39工業化 学科卒)	④S23蚕業 実科卒	⑤糸交会 (S31製糸学 科卒)	⑥ポプラ会 (S30獣医学 科卒)	⑦S38獣医 学科卒	⑧牧風会 (S22獣医畜 産学科卒)
参加者数	8名	16名	28名	19名	9名	13名(他に夫 人5名)	13名	16名(他に夫 人5名)
講演, 討論等	情報交換	情報交換 阿武隈源流 散策	情報交換	情報交換	情報交換 日本科学未 来館	情報交換	情報交換	情報交換



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

- ① S17年9月 拓殖学科卒
- ② 6711会 (S43農学科卒)
- ③ フサク会 (S39工業化学科卒)
- ④ S23蚕業実科卒
- ⑤ 糸交会 (S31製糸学科卒)
- ⑥ ポプラ会 (S30獣医学科卒)
- ⑦ S38獣医学科卒

〈会員からの便り〉

愛泉会における障害児とのかかわり

三上泰夫(農化S45)

私は現在、学校法人愛泉会が運営する芸術工芸高等専修学校に勤務していますが、この学校は、知的障害児を中心に一般の教育になじめない人を対象に伝統工芸の技術指導をするというかなり変わった専修学校です。ここでは本校の誕生の様子と、本学の卒業生としては異色ですが私のかかわりを記したいと思います。

私が学生当時、農工大の厚生課長から愛泉会(昭和16年設立)を紹介されたのは昭和40年の春でした。今でいう知的障害児施設(個人経営)でのアルバイトでしたが、自分のイメージとはまったく違い、日本舞踊やピアノ、フルート、佐賀錦(織物)などの練習に励む子供達のひたむきな姿を目の当たりにし、また、日本舞踊で藤間流の名取りとなった人がマスコミに大きく取り上げられ、その後結婚したという事実を知り大きなショックを受け、自分が大変小さな存在に思えたことを今でも鮮明に覚えています。

施設に泊り込んで仕事に没頭しながら大学に通ううちに、愛泉会の仕事が続けたいという思いが強くなり、卒業と同時に正式に職員となりました。施設児童の面倒をみながら、組紐や綴れ錦、漆芸といった日本の伝統工芸を技術導入するのが自分の主な仕事でした。一流の工芸家と接し、その技術を取り入れる仕事は誠にやりがいがあり、若さにまかせて寝る暇を惜しんで働きました。愛泉会の活動に大変協力して下さったデザイナーが、小学生のときに亡くした父の東京芸大の後輩で、母もよく知っている方であったことなども、私をこの仕事に駆りたてた原動力になっていたと思います。

その後、家庭裁判所少年補導委託先の仕事も加

わりました。問題を起こした非行少年にとって、施設の中で我々や児童と共に生活することが自分を見つめ直すよい機会となっていたようで、無事に最終審判で不処分の決定を受けた人も多く、彼らの社会復帰のお役に立てたと思います。同じ頃、プレハブの建物を増築し、昭和16年以来施設内で行っていた技術指導の分野を独立させて『愛泉会芸術工芸学院』を設立。知的障害児と非行少年が共に生活し共に学ぶという国内でも珍しい組織となりました。オランダのベアトリクス皇女(現女王)がこの様子をご視察に見えたのもこの頃でした。

今では家裁の仕事もやめ、施設は福祉法人となって補助金や篤志家の寄付で運営されています。芸術工芸学院は学校法人が運営する芸術工芸高等専修学校となりました。しかし、専修学校も、少子化や不景気などで生徒数が激減し、経営はかなり厳しい状況です。日経ベンチャーのホームページで、障害者に熱心に芸術教育をしている日本でも数少ない組織として紹介されたりはしていますが、もともと宣伝が得手でなく、なかなか入学者が増えてくれないのが現状です。知的障害を持った人でも日本の伝統技術に触れ合い、伝承できるという人生の目標と誇りが得られる数少ない場として、本校の存在意義は大きいと考えており、使命感をもってさらに尽力したいと思います。小さな一歩を踏み出している我々の背中を大きな力で押し下され、さまざまな形でのご援助をいただければ幸いです。

同窓諸氏の暖かいご支援を。愛泉会へのご支援は寄付金控除の対象になります(高橋幸資)。

(連絡先：愛泉会 TEL 042-375-7314)



授業風景



作品



作品

掲 示 板

農工大TLO株の活動報告(3)

取締役副社長 前田 裕子(織高S59)

平成13年10月1日に、東京農工大学卒業の皆様のご支援を受けて発足した農工大ティー・エル・オー(株)についてご報告申し上げます。この農工大ティー・エル・オー(株)は、東京農工大学で生まれた研究成果を、企業へ技術移転したり起業を行うことで社会還元し、新産業の創出に貢献するための技術移転機関です。卒業生ら522名による8,000万円の出資によって株式会社としてスタート致しました。2年目となる平成15年3月期決算は、3億5千万円を超える収入が発生し、前年度税引き後300万円強の利益よりも大幅に増加致しました。これらは、下記のような活動と皆様のご協力によって達成することができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

1. 技術移転

平成14年度新たに2件の技術移転契約を締結致しました。累計の技術移転は6件となり、すべての案件で実施料収入が発生しています。実施料の配分等として、東京農工大学に468万円の寄付金を納入しました。また、20件(PCT出願1件を含む)の特許出願をしました。

2. 会 員

順調に入会が進みまして、年度末の会員は35社に達しました。会員企業には、特許情報や技術研修の料金割引等のサービスをしました。今後とも、ご協力お願い申し上げます。

3. 展示会・セミナー

特許流通フェアなど9つの産業技術移転関連の展示会に参加し、農工大学の技術をアピールしました。セミナーについては、技術研修を3回開催した他、マーケティングセミナーと新春講演会(講師：石弘光・一橋大学長)を主催しました。

4. その他

経済産業省のマッチングファンドの補助事業者として6件(全国最多)の共同研究マネジメントや、補正予算の即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業1件の管理法人を行い、農工大学へ総額1億4,435万円の共同研究費を納入しました。他、大学発ベンチャー支援等を行いました。

来年4月には、国立大学の独立行政法人化が実施される予定です。東京農工大学が益々発展します様、努力して参りたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

キャリアアドバイザー(進路就職相談室より)

— 拝啓「新卒業生諸子」—

麿 秀 磨(工化S39)

皆さんが東京農工大学を巣立ち、早三ヶ月が過ぎようとしています。期待と不安をかかえての社会人への仲間入り、少し足が地に着いてきた頃でしょうか。社会人一步の感想は如何？

皆さんの、初志は入社企業や進路先で貫けそうですか？ 三日、三月、三年という言葉があります。卒業後「こんなはずじゃなかった」という思いがよぎる時期を言うそうです。皆さんはこんな思いをされていないこと信じますが、長い起伏に

富んだこれからの人生、ここでじっくり先を読んで見るのもむだではないでしょう。学生時代と社会人となった今では社会の見方に大きな差がありませんか。私の40年を超える企業生活にあって雇用形態は劇的に変化し終身雇用制、年功序列制は完全に崩れ去ってしまいました。女子の雇用も大きく変化しました。世界情勢については東西冷戦の終結が最大の変化だったと思います。グローバル化、情報化社会、(自分では生涯所有することな

どできないと考えていた)車社会の到来どれもが予想もできなかった変容ぶりです。皆さんが私の年代になる頃は一体どんな社会になっているでしょう。今、考えられることは、キーワードで表現すれば、ロボットの時代、宇宙の時代、遺伝子治療の時代、文明の融合などでしょうか。しかしこんな中で20世紀の大量生産大量消費のつけは確実に21世紀の中頃には到来しそうです。資源の枯渇、エネルギー問題、地球環境問題が極めて危機的状況になりそうです。昨年相談室に來られた学生さんの中には、明確にこれらの問題意識を持った方もおりました。頼もしさを感じました。

21世紀の日本と世界の発展は自分たちが背負って立っているのだという気概で頑張ってもらいたいものですね。ノーベル賞受賞の田中耕一さんの

ように第一志望企業に合格せず第二志望の島津に入社し偉業を成し遂げた例もあります。器が人生を左右するわけではありません。器の中で自分は未来に向かって何を為すべきかが重要でしょう。

自分の生き方の「哲学」をもつ。これからの社会人生活にもっとも大事なことです。また困難にぶつかった時は決して道は一つではないと思えば冷静になり解決のヒントは自ずから生まれるものです。「人生を楽観視せよ、悲観からは何も生まれない」はこんなことを言っているのでしょう。

紙面に限りあり意を尽くしませんが、最後に農工大学卒業生は、皆「すばらしい人」だと評価されるよう持ち場、立場でご活躍されんことを期待し筆をおきます。 Good Luck

財東京農工大学後援会の活動

▼平成14年度第2回役員会・評議員会は、本年3月29日、来賓として東京農工大学宮田学長、有馬、松岡副学長、國見連合農学研究科長を招き、大学本部会議室において開催されました。会議においては、平成15年度事業計画、収支予算案が審議、決定され、また副会長の交代選任が行われました。

平成15年度(平成15年4月～16年3月)収支予算規模、事業規模については昨年より若干多い水準となります。

平成15年度の大学に対する教育研究援助総額は、昨年をやや上回る8.5百万円を計画しています。

会議では、後援会事業内容と援助額に関する課題について、また記念ホールに隣接して増築予定部分への同窓会(後援会)の係わりについて論議されました。

▼平成15年度第1回役員・評議員会は去る5月31日、大学本部第2会議室において開催されました。議事に先立ち、後援会会長の挨拶、続いて来賓の東京農工大学宮田学長が「援助金の使途、来年よりの法人化に向けての動向」について略述されました。続いて議事に入り、平成14年度事業報告、決算報告、監査報告が行われ、原案通り承認されました。

さらに、編集、通信費含めて100万を越えない範囲で、後援会25周年記念誌発行の提案が行われ、了承されました。

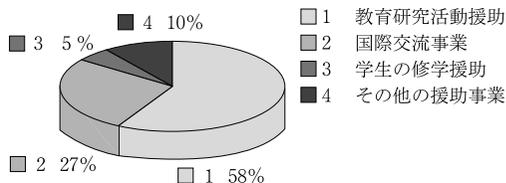
また、収入源である賛助会費の推移、今後の予算上の計上額などについて、質疑が行われました。

後援会事業援助活動は当財団の基金によって運

営されております。この基金の源泉は、卒業生、大学関係者、入学生、在学生の父母等による賛助会費と基金からの利息収入が主なものです。しかし金融情勢は悪化の状態が続いておりますので、改めて基金の充実をはかって行かなければなりません。賛助会費増額の内部努力をしていきたいと考えておりますが、皆様方からのご協力をお願いいたしたく存じます。

財東京農工大学後援会へのお問い合わせやご連絡は、事務局 TEL 042-364-3328 FAX 042-335-3500へお願いいたします。

平成6年～14年度 教育研究援助額 累計百分率



同窓会支部長及び支部連絡先(職域を含む)

(平成15年5月12日現在)

都道府県	支部長名	連絡員名	連絡先	電話
北海道	柳澤 秀夫(農工28)	宇野沢正美(農工46)	自宅	011-898-3198
青森	三橋修三郎(獣医16)	野村 昌志(農工39)	自宅	0177-38-3048
秋田	加藤 公朗(林 30)	舂谷 雅広(農工61)	県仙北総合農林事務所	0187-63-6116
岩手	堀田 成雄(林 31)	深澤 光(林 56)	県林業技術センター	019-697-1536
山形	長谷川昭平(製糸25)	今田 邦信(蚕糸57)	県農林水産部農政企画課	023-630-3031
宮城	山内 健史(林 45)	鈴木 正彦(林 57)	県都市計画課	022-211-3134
福島	小松 恭雄(林 29)	吉田 清(製糸56)	県金融共済グループ	024-521-7349
茨城	永瀬 純一(栽桑18)	川野 和彦(林 50)	県農林水産部林政課	029-301-4016
栃木	渡辺 寿一(獣医25)	南木 好樹(農工58)	県農政課	028-623-2284
群馬	大河原清一(養蚕24)	岡野 幸治(林 62)	県環境生活部自然環境課	027-226-2874
埼玉	高野 稔(養蚕33)	橋本 栄(環保56)	県農林部林務課	048-830-4312
千葉	庄司 健男(製糸28)	内田 律夫(養蚕47)	県病害虫防除所	043-291-6077
東京	細溪 美古(林 25)	細溪 美古(林 25)	サイビ国際総合学院	03-3829-3766
神奈川	小林 行塚(織別30)	日下 康彦(農工44)	県横須賀三浦地区農政事務所	0468-23-0210
新潟	布施 康正(獣畜20)	村山 康則(農 H3)	県新潟農政事務所	025-231-8187
富山	加茂 正三(拓殖19)	大川内康郎(生産H6)	県農林水産部食料政策課	076-444-8816
石川		北川 康一(農工46)	県七尾農林総合事務所	0767-52-2583
福井	島田 昭男(林 38)	野坂 雄二(農工53)	県農林水産部農村計画課	0776-21-1111
山梨	鶴田 栄一(織維19)	赤池 栄夫(蚕糸49)	県農政総務課	0552-37-1111
長野	竹下 悦男(農 34)	倉石 和典(蚕糸61)	県農政部農業技術課	026-235-7221
岐阜	麻生 迪夫(林 38)	藤掛 雅洋(林 62)	県中濃地域農山村整備事務所	0575-33-4011
静岡	戸塚 宏(農 16)	丸山 淳(林 H2)	県環境森林部	054-221-2655
愛知	春日井達造(獣医16)	瀧川 桂三(林 41)	県豊田土木事務所	0565-35-1311
三重	吉田 讓(獣医45)	古野 優(獣医60)	県南勢家畜保健衛生所	0598-28-2266
大阪	植田 栄一(製糸32)	竹中 秀夫(製糸50)	グンゼ(株)人事開発部	06-6348-1322
京都		西村 寿(農工50)	京都府土地改良事業団体連合会	075-451-4137
滋賀	地平 寛治(農 32)	森井 源蔵(農工50)	県農政水産部耕地課	077-524-1121
奈良	武田 博之(織化38)	武田 博之(織化38)	自宅	0745-72-7635
和歌山	石谷 敏夫(農実9)	中尾 俊二(林 53)	自宅	0738-52-0586
兵庫	松岡 克巳(獣医18)	三宅 昭仁(林産55)	県六甲治山事務所	078-361-8574
岡山	永井 仁(獣畜19)	関 哲生(獣医H7)	県農林水産部畜産課	086-226-7429
広島	貞森 昭宏(工化39)	三宅 信行(環保55)	自宅	082-822-4543
山口	赤木 道博(獣医49)	岡本 賢一(植防H4)	県農試徳佐寒冷地分場	08395-6-0016
鳥取	西尾 邑次(農17・9)	小林 寿(製糸24)	自宅	0859-29-2644
島根	萬燈 末達(農 16)	中尾 清治(農工34)	自宅	0854-27-0251
香川	鳥飼 孝二(獣医32)	河野 幸彦(林 63)	県西部林業事務所	0877-73-2347
徳島	岡田 幸助(林 28)	小杉純一郎(林 63)	県林業振興課	088-621-2449
高知		寺峰 孜(養蚕45)	高知学園短大講師	0888-40-1121
愛媛	重松 正矩(製糸32)	池上 正彦(蚕糸52)	県農産園芸課	089-941-2111
福岡	藤木 重喜(拓殖18)	西田 晴二(獣医41)	県農政部畜産課	092-643-3496
佐賀	貞松 光男(農 34)	貞松 光男(農 34)	自宅	0952-72-4368
長崎	本多 正二(製糸32)	永尾 嘉孝(農 42)	県総合農林試環境部	0957-26-3330
熊本	白石 武彦(農工38)	猿渡 真司(農61)	県菊池地域振興局農林部	0968-25-4111
大分	立川 道雄(電気41)	近乘 偉夫(農 58)	県農業技術センター水田利用部	0978-37-1141
宮崎	野上寛五郎(林 39)	森 房光(林 53)	県林務部山村対策室	0985-26-7157
鹿児島		遠矢 栄久(林産50)	自宅	0992-67-6946
沖縄	島袋 哲(獣医27)	川上 光男(農 58)	県中部農業改良普及センター	098-973-5202
横浜会	三戸森領夫(製糸31)	花田 正樹(製糸49)	横浜生糸問屋協会	045-211-2726
千葉共済		計良 伸行(獣医48)	県農業共済連家畜部	043-241-2171

慶 弔

今春本学を退官された教官

慶 事 お祝い申し上げます。

平成14年の叙勲

中村 良治(織化S30 H14.8没) 勲三等瑞宝章
松橋 利助(拓殖S19) 勲五等瑞宝章

平成15年 春の叙勲

青木 襄児(名誉教授) 勲三等瑞宝章
戸塚 昭(農化S34) 紫綬褒章

弔 事 ご冥福をお祈り致します。

吐山 豊秋(名誉教授)
藤沢袈裟利(")

倉内 宗一	教授	農学部
佐藤 仁彦	教授	農学部
坂上 寛一	教授	農学部
佐渡 篤	教授	農学部
上原 孝吉	教授	農学部
加部 利明	教授	工学部
本多 庸悟	教授	工学部
村瀬 千明	教授	工学部
吉澤 徹	教授	工学部
小倉 紀雄	教授	大学院農学研究科
喜多山 繁	教授	大学院農学研究科
塩谷 哲夫	教授	大学院農学研究科
尾見 信三	教授	大学院生物システム応用科学研究所
中久喜正一	講師	農学部
遠藤 充勇	助手	農学部
尾崎 忠男	助手	工学部

事 務 局 だ よ り

支部活動の一層の活性化についてお願い

今期の同窓会理事会は、同窓会活動の目標のひとつとして、支部活動のより一層の活性化をあげ、具体策のひとつとして、支部総会時に気楽なミニ講演会を試行することを表明しています。

現在考えております、ミニ講演会の講師、テーマ及び内容を下記に紹介します。

	講 師	テーマ	内 容
1	大谷 幸利 工学部 機械システム工学科	3次元の世界	どうして物が立体的に見えるのか、ホログラフィ、ステレオグラムなど具体的な例を挙げ解説
2	澤田 孚夫 工学部 機械システム工学科	ニューヨーク高層ビルの崩壊	短時間で崩壊する原因について解説
3	堀 三計 工学部 機械システム工学科	超音波を利用した計測	超音波を利用して切削加工状態や樹脂射出成形加工状態をインプロセスで計測する方法及び超音波を利用した計測の基礎について解説
4	亀山 秀雄 工学部 化学システム工学科	農工大学が生き残るための4つのキーワード-TLO, COE, JABEE, MOT-	独立法人化後に大学が生き残る方策として、産学官連携推進(TLOの活用)、教育改革(JABEEの認定、教育のCOE, 専門職大学院)、研究のCOEなどがあげられる。農工大学のこれらの取り組みを紹介する
5	亀山 秀雄 工学部 化学システム工学科	農工大学発ベンチャーの現状と将来	既に農工大学発ベンチャーが13社設立され16年度までに、さらに数社設立されようとしている。6月にオープンする学内インキュベータの果たす役割と農工大学発ベンチャーの様子を紹介する

	講 師	テーマ	内 容
6	亀山 秀雄 工学部 化学システム工学科	農工大学が開発した 新しいアルマイト触 媒の開発と現状	農工大学で開発した新しいプレート型触媒を環境 浄化装置や燃料電池用の水素製造用改質反応器に 応用し事業化が計画されている
7	渡邊 敏行 工学部 有機材料化学科	ナノテクノロジーと 機能性高分子材料が あなたの暮らしを変 える	機能性高分子とはどのようなものか。従来のプラ スチックとはどこが違うのか。高分子材料とナノ テクノロジーが融合することによって、未来の生 活はどのように変わるのか。機能性高分子材料の 電気製品や医療技術に対する波及効果について解 説
8	竹山 春子 工学部 生命工学科	バイオテクノロジー	海の中の目に見えない小さな生物を利用したバイ オテクノロジーの解説
9	桑原 利彦 工学部 機械システム工学科	金属塑性ともの作り	金属が永久変形する性質を塑性と呼ぶ。塑性を利用 した、もの作り技術の最近の動向をわかりやすく 解説
10	小原 嘉明 農学部 獣医学科	男と女の生物学	男と女の内に潜む性的性質を動物行動学的に説明。 なぜ男は女より大きいのか、女はなぜ常に発情状態 にあるのか、なのに発情を隠すのはなぜか…
11	小原 嘉明 農学部 獣医学科	ヒトの進化	ヒトはなぜ直立二足歩行し、大きな脳で知的行動 をし、集団(=家族)で繁殖し、言葉(特殊な社会 行動)を話すようになったか。
12	小原 嘉明 農学部 獣医学科	利己的な遺伝子	我々が目にするシカやツバメなどの生物は、生物 の真の姿ではない。それは遺伝子の戦略のもとに 形作られた遺伝子の仮の住まいにすぎない…。生 物観、自然観、人生観をも変革する「利己的遺伝 子」とは？
13	高橋 幸資 農学部 応用生物科学科	新たな澱粉複合素を 求めて	澱粉とは異なる食品成分を結合した新たな澱粉複 合素材の創出を目指した取り組みを紹介
14	横山 正 農学部 生物生産学科	ダイズと根粒菌の共 生を知っていますか	ダイズと根粒菌の共生が生じる機構や根粒菌の探 索先端研究から現場までの事例を紹介
15	渡辺 元 農学部 獣医学科	内分泌擾乱化学物質 (環境ホルモン) - 本 当の話	ダイオキシンやPCBなど人間が作り出したさま ざまな化学物質が、内分泌擾乱化学物質(環境ホ ルモン)として、哺乳類や鳥類にどのような影響を 実際に及ぼしているのか? どのようなメカニ ズムで作用するのか? 最近の成果を交えて解説。
16	岡山 隆之 農学部 環境資源科学科	本の高齢化対策 - 大 切な図書を長持ちさ せるには -	古い本や紙がボロボロになる理由と、これを防ぐ 方法について説明

支部の皆さんへ

支部総会開催時、ミニ講演会も併せて実施の要望がありましたら、同窓会事務局(TEL 042-364-3328, FAX 042-335-3500)へ、ご一報下さるようお願い致します。

事務局では、渡邊 敏行総務副部長(支部担当)(TEL 042-388-7289, FAX 042-388-7289)に連絡し、講師の派遣についての検討をお願い致します。

▼部会・支部総会・クラス会の原稿についてお願い

従来、部会・支部総会・クラス会について、各位より農工通信への投稿原稿を送って頂いています。その原稿内容に準じて、掲載してまいりましたが、前号(70号)の事務局だよりの中でお知らせした様に本号(71号)より、掲載方法を変更しております。従いまして、今後ご投稿をして頂く場合は、下記の内容でお願いいたします。

1. 部会・支部総会の場合：学科・支部名、開催日、開催場所、理事派遣の有無、派遣理事名、参加人数、議事内容、講演・討論などの内容、その他の項目(簡条書き)と一葉の写真
2. クラス会の場合：クラス会名、開催日、開催場所、参加人数、その他の項目(簡条書き)と一葉の写真

写真につきましては、「農工通信」発行後ご返却いたします。紙面割付けの関係上、割愛させて頂く場合もありますので、あらかじめご了承頂く存じます。

ご投稿の原稿につきましては、5月15日までに到着分を7月発行号に、10月15日までに到着分を12月発行号の各「農工通信」に掲載いたします。

▼同窓会事務局、夏期休業のお知らせ

本年の夏期休業は、8月9日(土)～8月17日(日)までとさせていただきます。ご案内申し上げます。

▼事務局長の交替

平成10年より5年の長きにわたり、同窓会の事務局長を勤められ、当会の発展に寄与されてきました瀬木秀保氏(製糸31)は、本年4月25日付にて退任されました。

新事務局長には岡本修二氏(機械40)が同日付で就任しております。相変わらずのご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

▼農工大全OB基会のお知らせ

毎年全国よりOBが参集、更に梶井前学長をはじめ現職の教職員、囲基部の学生が参加して、親睦の和が広がって来ました。蚕糸、繊維、農林、農工大全OBの基会です。棋力の強弱は問いませんので奮ってご参加下さい。

1. 期日 平成15年11月30日(日)a.m. 9:30集合
2. 会場 日本棋院(市ヶ谷)3F 会費3,000円
3. 連絡先 須田浩行(農化S34)
TEL 03-3469-6891(勤務先)
TEL 0424-88-7833(自宅)

仲谷虎之助(農化S25)記

編集後記

農工通信第71号をお送り致しました。「時代にマッチし、読者を満足させる農工通信にする」という同窓会の方針(同窓会誌、農工通信の魅力アップ)を前号の農工通信に掲載しておりますが、その線に沿って本号より、通信の構成内容の変更を試みました。

「学園便り」に、西尾前会長と畑中新会長の卒業、終了、入学の祝辞を掲載しておりますが、その後、農工大学に入学して約2ヶ月経過した、農学部の新入生の、感想を載せました。読んで頂けましたでしょうか。フレッシュな風が心に届きましたか。農工大学農学部正門のケヤキ並木は非常に大きくなりましたが、皆様が学んでいた頃と風景は変わりません。今回は、工学部の新入生の感想をお届けできればと考えております。

「部会・支部だより」と「クラス会だより」は内容が大幅に変わっております。皆様から頂きました写真に添えられている文章は、同窓会事務局で保管しておりますが内容掲載は省略致しました。この編集方針に関しては色々、ご意見がある方もおられると思います。どうぞ、同窓会まで手紙やe-mailでご連絡下さい。今後の参考にさせていただきます。

次号ではさらに、現役学生による同窓生の職場訪問インタビューなども考えています。段取りが結構大変だと思っておりますが、特に東京近郊の同窓生の方にはぜひ協力をお願いしたいと考えております。皆様がお読みになって、楽しめるインタビュー記事を作りたいと考えております。では、72号でまたお会い致しましょう。

(横山 正, 竹山春子 記)

農工通信 第71号

平成15年(2003年)7月1日

発行所 東京農工大学同窓会
連絡先 〒183-8509東京都府中市幸町3-5-8
東京農工大学同窓会事務局
(TEL 042(364)3328)
(FAX 042(335)3500)
e-mail: dosokai@cc.tuat.ac.jp
http://www.tuat.ac.jp/~dousou/
振替口座 00120-9-93147番(加入者負担)
加入者名 東京農工大学同窓会